

野菜需給協議会幹事会の概要

持ち回りで開催した「野菜需給協議会幹事会」の概要は以下のとおり。

1 幹事会員に対する説明

にんじんの輸入量は、昨夏の台風・長雨の影響により国内産が不作となったため、昨年8月～本年6月までの輸入量は、対前年同期を大きく上回って推移。輸入量増加による流通在庫は、7月以降の市況に影響。

そのような中、秋にんじんの主産地である北海道においては、7月以降天候に恵まれて生育が順調となったため、出荷数量が平年を上回る状況が続いている。

このため価格は、7月下旬以降は、平均価格を大きく下回る状況が続いている。

2 幹事会員から出された意見

- ・ 昨年の台風・長雨により北海道産等が不作となって輸入が増加し、それが1年後の北海道産の市況に影響を与えることになるとは生産者も大変だ。
- ・ このような安値では肥料代やガソリン代も捻出できないのではないかと、安値が続くことによって生産者の意欲や作付面積が減るのは困るし、翌年が心配。
- ・ にんじんは、キャベツ、はくさいと違って品質的に日持ちするので加工品向けに出荷できるものの、生食と比べて安い価格で取引されると認識。それでも加工品向けに出荷して卸売価格が回復できれば良い。
- ・ にんじんは、調理にあたっては加熱が必要で手が掛かる食材であることから、消費者に利用してもらうにはPRの仕方を考える必要。例えば、ただ単に「価格が安いから」というのではなく、「食べれば廃棄にならず無駄をなくせる」という訴えをしたい。
- ・ にんじんは栄養価が高く、彩りの野菜でもあり、常備野菜の一つ。例えば、グラッセを冷凍保存して食べると味が美味しくなるので、PRすれば消費が広がるので取り組みたい。
- ・ 8月の長雨等で全般的に食材の価格が上昇している中で、今般のにんじんの価格低迷の話は会員（外食・中食・給食事業者）向けにPRしたい。価格が安くても高運賃になってしまえば意味が無いので、産地に近い製造事業者にPRしたい。
- ・ 近日中に総会や、HP等で関係者に消費拡大を呼び掛けたい。

3 野菜需給協議会としての対応

以上のような意見を踏まえ、野菜需給協議会として、別紙のような取組みを行うこととした。

野菜の計画的な生産と消費拡大の推進について（案）

平成29年9月 日
野菜需給協議会

- 1 最近のにんじんの卸売価格は、秋にんじんの主産地である北海道において、7月以降天候に恵まれて生育が順調となったため、出荷数量が平年を上回る状況が続き、7月下旬以降の価格は、平均価格を大きく下回る状況が続いている。
- 2 産地側では、消費拡大に向けた取組みを行っているものの、出荷を継続すれば赤字になるという極めて厳しい状況におかれているため、加工品（ジュース、冷凍等）の生産拡大向けに出荷することにより、価格の回復を図りたいと考えている。
- 3 このような状況を踏まえ、生産者においては、にんじんの需要動向に即した計画的な生産を行うこと、野菜需給協議会の会員においては、
 - ① 消費者の野菜の摂取量が年々減少している中、厚生労働省が定める「健康日本21」〈第2次〉における目標（成人1日当たり350グラム）を目指して、野菜の一層の摂取を消費者に働きかけること
 - ② 会員それぞれの特色を活かし、野菜の需給動向等の周知や、新しいメニュー（蒸し野菜など）の工夫、優れた機能のPRなどにより野菜の消費拡大活動を更に推進することを、野菜需給協議会として呼びかけることとする。